

第 10 回 市長と話そう 津山づくりミーティング ～外国人も住みやすい津山へ～



津山に暮らす外国人の皆さんの日本語の習得や日常生活の相談などの支援をしている 5 人が、7 月 12 日に市長と意見交換をしました。

参加者 日本語学習をしている外国人は、最初は仕事に必要な日本語の習得が主な目的だったが、友達をつくりたい、様々な人と日本語でコミュニケーションしたいという思いが変わってきた。病院の受診や学校などとのやりとり、ゴミ出しなど、日常生活面のサポートも必要になっている。



参加者 外国人からは、「困っている」と日本人に声をかけづらい。

参加者 言葉が通じないことで些細な誤解が生じトラブルもあるが、近くにいる日本人が外国人にちょっとしたサポートをすることで、いい関係が築ける。そうすれば、外国人だけへのサポートに留まらず、まわりまわって社会全体へのサポートになる。

市長 津山での生活に慣れるまでの時間の短縮や人とのつながりを重視した取組が必要ということですね。



参加者 外国人は、分からないことを何とか自分で理解しようと頑張ったり、気を遣って日本人に尋ねるのを我慢していたりして、必要な情報を必要な時に得られないことがある。

参加者 病院に付き添って行く際など、通訳が難しいこともある。行政や学校等からのお便りは、熟語や難しい言い回しが多く理解しづらい。英語などに訳さなくても、やさしい日本語（分かりやすい日本語）を使って、はっきり、短く、要点のみを伝えるようにすれば理解できる外国人も多いはず。

参加者 サポートする側も内容が多岐にわたってきている。サポートしている人が相談できる機会があればいい。

参加者 近所の人に餅つきに誘ってもらい、地域の人と交流ができたという話を聞いた。「一緒に地域の行事に参加しよう」と声をかけられると、うれしいと思う。

市長 津山が、そういう声掛けがある街でうれしいです。やさしい日本語を使うなど、意識していきたいですね。

■参加者への事後アンケートの声

- ・外国人の話聞く機会があってもいいのではと思った。
- ・助けがいたるところはサポートするが、基本は若くて、元気で、津山に自分の将来を託して来てくれる頼りになる隣人だと伝えたい。
- ・Wi-Fi環境の整備により、分からない漢字などをすぐに調べられて便利になる。
- ・色々な国の人と意見をかわしたり、日本人との出会いの機会がもっとあれば良いと思った。
- ・やさしい日本語を使うことなど、それぞれの意見に共感した。



(前列左から)砂田真理さん、チャン・ティ・ランさん、三村文恵さん
(後列左から)藤田美穂さん、藤田泰志さん、谷口市長